

日本小児外科学会 理事立候補 所信表明文

- (ア) 渡辺稔彦
- (イ) 1996年(平成八年)
- (ウ) 委員会活動歴・抱負

この度、日本小児外科学会の理事立候補にあたり所信を表明させていただきます。

東海大学小児外科に着任後、大学卒前・卒後教育に携わりながら神奈川県西部の小児期医療に邁進してきました。教育委員会委員／委員長、学術・先進医療検討委員会委員／委員長、トランジション検討委員会委員、秋季シンポジウム小委員会委員、医薬品・医療機器検討委員会委員、PSI Publication Committee 委員を務め、学閥を越えて先生方と共に学会運営に尽力してきました。本学会の方向性について考えることを以下のように申し述べます。

1. 学会員・社会への情報発信とブランディング

本学会ホームページ「会員コンテンツ」は学会員の活動歴の結晶であり、この魅力的な情報を学会員へ積極的に発信し効果的な利用をサポートする必要があります。本学会がリーダーシップを持って一般社会に向け有益な情報を発信し「小児外科」のブランド力を醸成し社会的な評価をしっかりと享受できる活動が重要です。

2. 国際的な人材育成体制

ベトナムでの小児内視鏡外科研修コース受講の機会を経て若手小児外科医の交換留学が実現しましたが、国際的にお互いの弱点を補完する協力関係を構築できると考えます。学会が国際的な協力関係を支援し、幅広い視野と技術を持った人材を育成して学会運営に還元して頂くことで分厚い学会運営基盤の設計ができると考えます。

3. 若手／女性／地方の医師支援

本学会の更なる発展には、多忙な労働環境に苦慮する若手医師、キャリアの中断を余儀なくされる可能性のある女性医師、少子化の影響で小児外科教育機会の減少危機にある地方の医師、への支援が鍵を握っています。特有な現場の声とニーズを集積し学会として対策を展開できるシステム構築が重要です。

これまで成長の機会を頂きました本学会への御恩に答えるべく尽力する所存です。評議員のみなさまのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。